

平成27年度

原町第三小学校 学校図書館支援活動記録

学校図書館支援員 込堂小百合

1 学校図書館の概要

学校の紹介

耐震工事に伴い、今年度は二学期より一時的に空き教室を利用して学校図書館を運営していくことになる。学校図書館として「物語の部屋」及び「調べる本の部屋」の名称で二部屋を使用しており、耐震工事中も隣どうしの二教室を使用することとなった。但し、「調べる本の部屋」は木曜日に初任者研修、金曜日にスクールカウンセラーも同じ教室での活動となる。

平成27年度児童数

1年	2年	3年	4年	5年	6年	支援学級	合計
43名	54名	41名	52名	52名	37名	8名	287名

(平成27年12月末時点)

学校派遣日数 水・木・金曜日 週3回

図書担当教員 津久井知美先生・久保木幸子先生・門馬千玲先生

学校図書館蔵書数(4月当初) 20,726冊

学校図書館受入冊数(3月末時点) 645冊

うち 市費購入冊数及び金額 314冊(464,848円)

うち 杉並文庫購入冊数 228冊

うち 寄贈資料冊数 103冊

2 平成27年度の課題及び目標

①課題 不十分であった個人貸出の管理体制の見直し。

→目標 新しい貸出方法を理解できるよう工夫をする。

②課題 児童への資料提供がスムーズにできなかった。

→目標 耐震工事の影響を受けないよう配慮し、新しい学校図書館では資料を探しやすいように工夫する。

3 活動の方針

- ・学校経営グランドデザインに沿った学校図書館の運営を行い、教諭との連携に努めて児童が楽しく学べる環境を配備する。
- ・3年生以上は読書貯金の取り組みを始め、6年生には選書にチャレンジしてもらい、本に興味をもってもらい、親しめるようにする。
- ・個人貸出目標冊数として1,2年生以上は年間30冊以上。3年生以上は20冊以上も

しくは読んだ本の総ページ数が1,000ページ以上。

学校図書館年間活動計画（スケジュール）

月別	蔵書管理・図書活用・読書指導	児童図書委員会活動内容	市立図書館との連携
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 予算検討と管理の確認 ・ 担当教諭との打合せ ・ 開館準備 学級文庫入れ替え ・ 担当教諭より職員会議にて学校・図書館活用におけるオリエンテーションの実施を呼びかけてもらう ・ 各クラスオリエンテーション開始 ・ 貸出開始 ・ PTAによる環境整備ボランティアを募る ・ 放送による読み聞かせ開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 組織作り ・ 年間委員会活動計画 ・ 開館準備 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校図書館支援会議①
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・ PTA環境整備ボランティア開始 ・ 地域サークルによる絵本の読み聞かせ開始 ・ 杉並文庫選書 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 図書の借用開始 ・ 学校図書館支援会議②
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教室移動のため閉館 ・ 市立図書館のみの貸出開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 低学年に朝の読み聞かせ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2年生来館
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 夏休み貸出図書の準備 ・ 夏休み貸出 ・ 引っ越し ・ 仮教室の環境整備 ・ 学校図書館だより配布 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 6年生選書体験 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもとしゃかんだより配布
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 二学期に向けて企画作成と担当教諭との打ち合わせ ・ 市費購入図書選書 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校図書館支援会議③
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仮教室開館 ・ 読書貯金開始 ・ 神奈川きずなブック選書 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 夏休み貸出図書の返却 	
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 読書フェスティバル開催（～11月まで） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 低学年に朝の読み聞かせ ・ イベント補助 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校図書館支援会議④
11月		<ul style="list-style-type: none"> ・ お勧め図書の放送開始 ・ イベント補助 	
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 冬休みの貸出準備 ・ 冬休み貸出 ・ 親子読書活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・ おすすめ図書ポスター作製 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校図書館支援会議⑤ ・ 子どもとしゃかんだより配布
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 冬休みの貸出図書返却 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 冬休み貸出図書返却 	
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度の貸出終了 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 低学年に朝の読み聞かせ ・ しおり作り ・ 委員会の反省 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校図書館支援会議⑥ ・ 子どもとしゃかんだより配布
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・ PTA環境整備ボランティア終了 ・ 地域サークルによる絵本の読み聞かせ終了 ・ 引っ越し 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ブック大賞選書 ・ 環境整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校図書館支援会議⑦

4 年間活動内容

1 年間の活動記録

4月

- ・全児童にオリエンテーションを実施。

貸出ルールの変更を伝え、利用の際に混乱せずスムーズに貸出作業が行えるようにつとめた。

開始当時は教室へと持ち帰ろうとする児童も見られたが、声をかけて指導をした。

オリエンテーションは、国語の各学年の課題や授業内容に合わせて進めた。特に6年生には、国語に出てくる「類・網・目」について、資料や教材を使い説明をした。(写真1)



写真1

6年生に対して、NDC（日本十進分類法）をつかったレファレンス学習への指導の様子。

5月

- ・運動会にむけてスポーツ関連の本を集めた紹介コーナーを設置。

図書を通して児童と一緒に一等賞をとるための作戦会議をたてることもあった。

- ・6年生に選書体験をしてもらう「チャレンジ・ブックハンター」を実施。

杉並文庫で購入する図書は、年ごとにテーマをつくっており、今年度は「楽しむ図書」をテーマにして選書の一部を児童とともにいった。

6月～8月

[引越しのための休館とその対応]

- ・6月、7月は二つの図書室を休館し、耐震工事に伴う引越しにむけての準備を保護者や地域住民の方とともに協力して行った。

除籍図書を整理し、次に移動する教室の広さに配架できる図書の冊数を確認。授業で使用する資料は、市立図書館から借りてきて、対応した。

- ・引越し作業に伴い、図書室が使えなくなってしまうため、児童の学習や読書意欲に影響が出ないよう学級文庫の充実をはかった。

[放送による読み聞かせ]

- ・毎週金曜日の昼休みに、校内放送による読み聞かせを年間通し実施した。

[学校図書館だよりの作成および配布]

- ・学校図書館だよりに「家庭内読書のすすめ」を記載。

[教室を利用した図書室の再開]

- ・ 7月後半から空き教室二部屋を使って一時的な図書室として再開した。

9月

[杉並文庫の配架および児童のおすすめ本の紹介]

- ・ 新しく入った杉並文庫は、ブックハンターとして6年生が選書した本もあるため、本を借りにくる児童や新しく学校図書館を訪れる児童が増加し、本を通して児童同士の会話が弾む姿も見られた。(写真2)



写真2
新しい図書室で楽しく読書をする児童。

10・11月

[読書が苦手な児童へのアドバイス]

- ・ 本を読むことは苦手だが、読書意欲がある児童へは今まで読んだ本でどんな本が好きだった？といった会話を重ねることで、興味を持った図書に手をのぼすようになった。

[読書フェスティバルの開催]

- ・ 読書週間にむけて、「おどる？うたう？いいえ！たくさん読んじゃいましょう！読書フェスティバル・・・だから「よみフェス」をキャッチコピーに開催。

・ 主な企画

- ① 「パンドラのことば」・・・全児童を対象
- ② 「わくわくスタンプあつめ」・・・1・2年生対象
- ③ 「読書貯金」、「ふるさと昔ばなしマラソン こど～こだ？」・・・3～6年生対象

読書貯金は、「たくさんよむゾウ」を合い言葉に開催した。(写真3)



写真3
低学年と高学年のイベントの用紙と読書貯金の用紙。

[実施例1：「ふるさと昔ばなしマラソン ここど〜こだ?」]

- ・校長先生をはじめ、先生方と連携しながら進めた。全国47都道府県の昔ばなしを読むことにチャレンジし、読んだ地域に色を塗っていきながら楽しく読書活動をおこなった。(写真4・5)



写真4
各地域の昔ばなしを読み、日本地図を完成させていた。



写真5
昔ばなしの棚の貸出の様子。普段あまり本を読まない児童も本を読むきっかけとなった。

[実施例2：「パンドラのことば」]

- ・全児童を対象に、しおりに書いてある言葉を本の中から見つけ出すという企画を実施。多くの児童がゲームをしているように楽しみながらチャレンジしていた。(写真6)



写真6
「パンドラのことば」で使用したしおりとしおりにかいてある本を展示。普段手に取らなかった本も自然に手に取り、興味をもって読んでいた。

12月

[授業参観を活用して本を貸出]

- ・親子読書の一環として授業参観に3年生の保護者が本を借りに来た。学校の目標にあがっている家庭内読書をすすめていくためには、保護者への働きかけも重要であり、今後もこのような機会を作っていけるようにしたい。

1月

[新春むけ企画の実施]

- ・新春むけの企画として、お正月らしい縁起の良いことわざを紹介し、それに合わせたちょっと

変わったしおりを作成。



本の紹介①
学校に霜が降りた日に写真とともに紹介。



本の紹介②
干支の「ひつじ」と関連し、ひつじからどのように服ができるのかがかかっている絵本と一緒に紹介。

2月

- ・ニュースなどで話題となっているブック大賞を取り入れ、三小図書委員が選ぶ「三小ブック大賞」を開催。ポスターも掲示して関心を持つことで貸出へと繋げた。
- ・南相馬市誕生十周年を記念し、ダンボールを使用して大きな記念ケーキを作成。先生、児童、ボランティアと一緒に仕上げた。同時に当時の新聞や関連資料を紹介。(写真7)
- ・引っ越し



写真7
南相馬市誕生のケーキに集まる児童。掲示した地域資料を読みながら合併前の市や町の名前を覚えるなど興味深く手にとる姿が見られた。

5 中央図書館サポート職員による支援内容

- ・杉並文庫の選書アドバイス（本の分類確認）および発注処理
- ・市図書費の選書アドバイス（本の分類確認）および発注処理
- ・図書室の移動にともなう資料整理

6 学校図書館利用実績

(1) 年間貸出冊数

① 個人貸出冊数

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	支援学級	総合計
年間合計	529	630	601	563	395	209	97	3024
一人あたり	12	12	15	11	8	6	12	11
昨年度比	106%	126%	55%	159%	341%	201%	-	115%

※1人1冊1週間の貸出

※前年度に統計が出ていない場合は比較無し

② 学級文庫貸出冊数

	1年 (2クラス)	2年 (2クラス)	3年 (2クラス)	4年 (2クラス)	5年 (2クラス)	6年 (2クラス)	支援学級	総合計
学年合計	288	282	198	213	178	309	142	1610
昨年度比	100%	129%	103%	91%	85%	103%	127%	104%

③ 調べ学習等貸出冊数

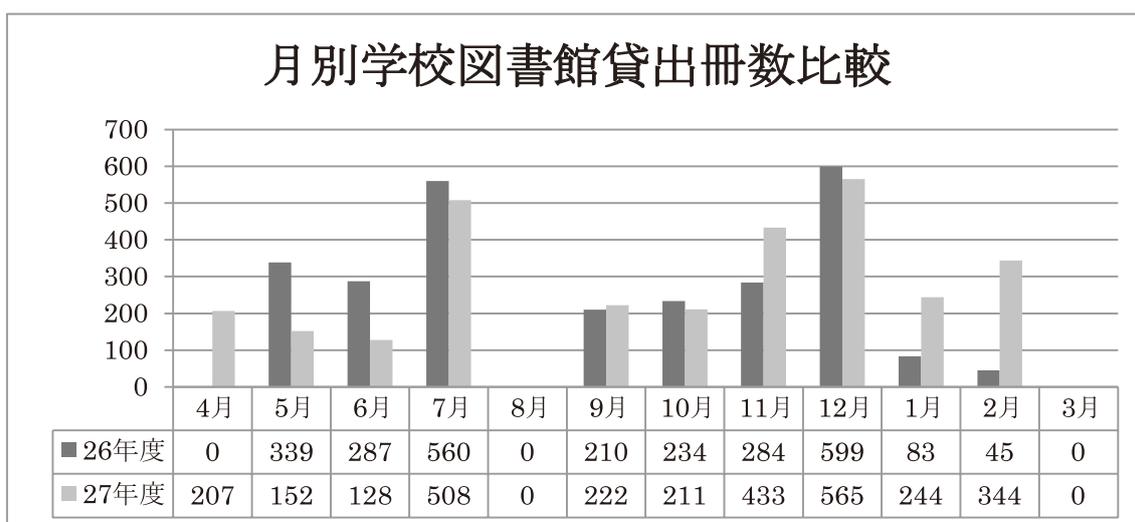
	1年 (2クラス)	2年 (2クラス)	3年 (2クラス)	4年 (2クラス)	5年 (2クラス)	6年 (2クラス)	支援学級	総合計
学年合計	17	90	198	46	28	82	56	517
昨年度比	-	-	990%	28%	21%	42%	1120%	100%

※前年度に統計が出ていない場合は比較無し

(2) 学校図書館利用実績比較

昨年度の学校図書館の利用実績と比較すると次の表となる。(表1)

表1 月別貸出冊数の比較



分析結果をまとめると、前年度と環境が変わった中でも利用率が低くなる事もなく、安定した貸出を提供することが出来た。読書週間におけるイベント期間中は、前年度に比べると良い結果

が現れた。また、今まで伸びなかった3学期の貸出冊数が前年度に比べ大きく伸びており、このことから児童が読書の楽しさに芽生え、積極的に図書室を利用している姿がうかがえる。

今年度は引っ越しによる閉館期間もあり、仮の図書室も規模が小さく、開架できた蔵書が少なめではあったが、「この本を読みたい」という目的を持って借りる児童の姿や読書相談が目立った。それに伴い、しっかり読書を楽しめる児童が増え、貸出内容も低学年も絵本よりも物語が多く、読書の質が上がった傾向がみられた。

7 本年度の成果及び来年度に向けた課題

(1) 本年度の成果

- ・個人貸出の管理体制の見直しを行い、ファイルの館外持ち出しをなくしたことで、児童が貸出や返却を行いやすくなった。また全児童へオリエンテーションを実施することで、図書室の利用方法がわかり、児童が積極的に図書を借りにくる姿が見られた。
- ・耐震工事の影響を受けないよう学級文庫を増やし、授業や調べ学習に使用する資料の足りない分を中央図書館から補うことで、授業に影響が出ないように対応できた。

(2) 来年度に向けた課題

- ・個人貸出の管理体制の見直しでは、高学年の児童にとっては利用しやすくなったようだが、低学年にとっては利用しにくいようだったので、今後も低学年用の貸出方法の見直しを検討したい。
- ・学校の教育方針として、新聞を教材として活用するNIE教育の推進があげられているため、NIE教育へとつなげられるような学校図書館にしていく必要がある。今年度は、授業の中で子ども向け雑誌の時事クイズに挑戦をするクラスもあり、今後はより新聞教育を支援していきけるよう資料を揃えるなど、支援の強化に努めたい。